

MySQL 5.1.40 リリースノート（日本語翻訳）

InnoDB Plugin に関する注意事項:

- 今回のリリースでは、InnoDB Plugin は、RHEL3、RHEL4、SuSE 9（x86、x86_64、ia64）、および Linux RPM 汎用パッケージを除き、ソースおよびライブラリディストリビューションに含まれている。また、FreeBSD 6 と HP-UX、および S/390、PowerPC、ia64 全般の Linux では動作しない。

修正されたバグ:

- **矛盾を含む可能性がある変更:** MySQL のバイナリインストールの場合、支給されている *binary-configure* スクリプトを実行すると、コマンドラインオプション `--help` を指定したコマンドでヘルプを要求した場合でも、MySQL の起動および構成が実行された。現在では、`--help` を指定しても、サーバの起動およびインストールは実行されない ([Bug#30954](#))。
- **パーティショニング:** パーティションの再編成時、影響を受けるすべてのサブパーティションが名前変更の前に削除されるわけではなかった。2つのパーティションを再編成により、元のパーティションの1つと同じ名前を持つ単一のパーティションにしようとするだけでもこの問題を確認できる。この場合、サーバがクラッシュする可能性があった ([Bug#47029](#))。

[Bug#45961](#)、[Bug#43729](#) も参照。

- **パーティショニング:** パーティションドテーブルに対してオンラインまたは高速の [ALTER TABLE](#) を実行すると、テンポラリファイルがデータベースディレクトリに残される可能性があった ([Bug#46483](#))。
- **パーティショニング:** パーティションドテーブルに対して [INSERT ... SELECT](#) を実行すると、メモリの [read_buffer_size](#) バイトがターゲットテーブル内の各パーティションに割り当てられ、テーブルにパーティションが多数（100以上）存在する場合は、大量のメモリが消費された。

本修正により、各パーティションに必要なバッファサイズの見積もりに使用される方法が変更され、総バッファサイズが [read_buffer_size](#) の約 10 倍を最大値とするよう制限された ([Bug#45840](#))。

- **パーティショニング:** パーティションドテーブルの AUTO_INCREMENT カラムに負の値を挿入すると、明らかに無関係なエラーになるか、サーバがクラッシュする可能性があった ([Bug#45823](#))。
- **パーティショニング:** 挿入が不要なパーティションに対して一括挿入を実行する場合、サーバコード内で不必要な呼び出しが実行された ([Bug#35845](#))。

[Bug#35843](#) も参照。

- **レプリケーション:** スレーブテーブルに対して [ALTER TABLE ... DISABLE KEYS](#) を実行すると、行ベースのレプリケーションが失敗した ([Bug#47312](#))。
- **レプリケーション:** [BEGIN](#) ステートメントが、[mysqlbinlog](#) の出力に含まれていなかった ([Bug#46998](#))。
- **レプリケーション:** 行ベースのレプリケーションの使用時、該当するステートメント内で指定されているテーブルが存在しない場合は、バイナリログに [DROP TEMPORARY TABLE IF EXISTS](#) が書き込まれた。[DROP TEMPORARY TABLE](#) ステートメントは、実際には、該当するテーブルが存在するか否かとは無関係に、行ベースロギングモードではログに記録されないはずである ([Bug#46572](#))。
- **レプリケーション:** 行ベースのレプリケーションの使用時、[mysqldump](#) で出力されたダンプのインポート時、および AUTO_INCREMENT カラムが 0 に設定された行の複製時、マスタ上で [NO AUTO VALUE ON ZERO](#) がアクティブであると、その行はマスタ上で正常に挿入された。ただし、スレーブ上では [NO AUTO VALUE ON ZERO](#) の設定が無視された。AUTO_INCREMENT カラムの増分時は、重複キーエラーにより、スレーブ上でレプリケーションが失敗した。場合によっては、サーバがクラッシュする可能性もあった ([Bug#45999](#))。
- **レプリケーション:** カレントのトランザクションで AUTO_INCREMENT カラムを持つテーブルに行を挿入すると、ステートメントベースまたは混合形式のレプリケーションエラー1062 「Duplicate entry '...' for key 'PRIMARY'」がスレーブ上で発生する可能性があった。これは特に、AUTO_INCREMENT カラムを持つテーブルに行を挿入したトランザクションの1つがトリガをアクティブ化したものの、別の条件によってこの問題も発生する可能性がある場合に起こる確率が高かった ([Bug#45677](#))。
- **レプリケーション:** デフォルト時、マスタ上の [mysql_upgrade](#) プログラムによって実行されたすべてのステートメントは、バイナリログに書き込まれた後、スレーブに複製される。しかし、複製されたデータベース上のログテーブルを変更しようとした場合（ロギングが有効であったために失敗）など、これが問題になる場合もある。

本修正の一部として、[mysql_upgrade](#)の新しいオプション--write-binlog が追加されている。その逆の--skip-write-binlog オプションを使用すると、アップグレードの実行中に、バイナリロギングを無効にすることができる ([Bug#43579](#))。

- レプリケーション: マスタ上では、バイナリログイベントが [max_allowed_packet](#) よりも大きい場合、スレーブがマスタにダンプを要求すると、エラーメッセージ **ER_MASTER_FATAL_ERROR_READING_BINLOG** がスレーブに送信され、I/O スレッドが停止する。スレーブでは、[max_allowed_packet](#) よりも大きなパケットを受信すると、I/O スレッドが停止する。

ただし、いずれの場合でも、[Last_IO_Error](#) は報告されなかった。そのため、このような場合にスレーブが停止した原因の特定が困難であった。現在では、[max_allowed_packet](#) を超過すると [Last_IO_Error](#) が報告され、スレーブの I/O スレッドが停止した理由が通知される ([Bug#42914](#))。

[Bug#14068](#)、[Bug#47200](#)、[Bug#47303](#) も参照。

- API:** [Bug#24507](#) の修正により、競合が原因でクライアントアプリケーションが失敗する可能性があった。現在では、サーバが「ダミー」スレッドのリターンを待ってから終了するので、POSIX スレッドライブラリは 1 つのスレッドしか初期化できないようになっている ([Bug#42850](#))。
- Windows に実装される pthread_cond_wait() は、まれに、デッドロックする可能性があった ([Bug#47768](#))。
- Mac OS X または Windows の場合、サーバまたは非同期 FLUSH ([flush_time](#) によってトリガされる) に SIGHUP シグナルを送信すると、サーバがクラッシュした ([Bug#47525](#))。
- デバッグビルドの場合、Sun Studio コンパイラでコンパイルすることができなかった ([Bug#47474](#))。
- 自然結合およびマージ可能ビューが含まれる複数テーブルの [UPDATE](#) で、表明が発生した ([Bug#47150](#))。
- Solaris ライブラリパッケージは現在、-g ではなく -g0 でコンパイルする ([Bug#47137](#))。
- 特定の有効なクエリに対し、[EXPLAIN](#) でサーバがクラッシュした ([Bug#47106](#))。
- [configure](#) オプション [--without-server](#) が機能しなかった ([Bug#46980](#))。
- 複数テーブルの [DELETE](#) ステートメントの失敗により、表明が発生する可能性があった ([Bug#46958](#))。

- Windows 上で [mysqld-nt](#) および `--install` パラメータを使用して新しいインスタンスを作成する際、サービスの値が正しく設定されず、構成済みサービスを起動できなかった ([Bug#46917](#)) 。
- 相関関係のあるサブクエリ内で外部カラム参照を再使用する際、エンクロージング型クエリでテンポラリテーブルを使用すると、サーバがクラッシュした ([Bug#46791](#)) 。
- InnoDB テーブルの場合、メタデータのみの変更に対して、[ALTER TABLE](#) の不必要なテーブルの再ビルドがときどき発生する可能性があった ([Bug#46760](#)) 。
- サブセレクトを使用した正しくないクエリが含まれるストアードプロシージャを反復実行すると、表明違反が発生する可能性があった ([Bug#46629](#)) 。
- [CREATE TABLE ... LIKE](#) の [sync_frm](#) の設定をサーバが無視した ([Bug#46591](#)) 。
- 既存のビューと同じ名前のテーブルを作成しようとする、サーバがクラッシュした ([Bug#46384](#)) 。
- パーサの問題が原因で、UDF (User-Defined Function: ユーザ定義関数) の引数からバッククォートが正しく削除されなかった。UDF が ORDER BY 句にあった場合、その名前は SELECT リスト内の同名のエイリアスに照らして正しく解決されなかった ([Bug#46259](#)) 。
- 不明な照合 (別のサーバに基づいて作成されたものなど) を使用している InnoDB テーブルを削除すると、サーバがクラッシュした ([Bug#46256](#)) 。
- DISTINCT、GROUP BY、および HAVING 句が含まれる特定の [SELECT](#) ステートメントが、無限ループでハングする可能性があった ([Bug#46159](#)) 。
- InnoDB が、[GEN_CLUST_INDEX](#) という名前を持つインデックス (内部で使用されている) の作成を禁止しなかった ([Bug#46000](#)) 。
- [lower_case_table_names = 2](#) で、テンポラリファイルのディレクトリのパス名に大文字が含まれている場合、ファイルシステムで大文字/小文字が区別されるシステムでは、InnoDB テーブルに対して [CREATE TEMPORARY TABLE](#) が失敗した ([Bug#45638](#)) 。
- [ENUM](#) または [SET](#) の定義に値を追加することはメタデータの変更であり、[ALTER TABLE](#) ではテーブルの再ビルドが不要であるが、再ビルドが実行された ([Bug#45567](#)) 。
- Windows 上で、システム変数 [socket](#) が利用できなかった ([Bug#45498](#)) 。
- Windows 上で、以前インストールされた MySQL のデータディレクトリが存在するサーバに MySQL を再インストールする際、インストーラは該当するインストールの存在と root ユーザ用のパスワードを認識できなかった ([Bug#45200](#)) 。
- 埋め込みサーバの場合、クライアントフラグの初期化が正しく実行されないため、`jp` テストスイート内のテストがいくつか失敗した ([Bug#45159](#)) 。

- DB_ROW_ID、DB_TRX_ID、DB_ROLL_PTR、DB_MIX_ID のような内部カラムの名前に一致する名前を持つカラムが含まれるテーブルの作成を、InnoDB が禁止しない場合があった ([Bug#44369](#)) 。
- NULL のない同じクエリで効率のよいレンジスキャンを使用した場合でも、フルテーブルスキャンを使用した [SELECT ... WHERE ... IN \(NULL, ...\)](#) が実行された ([Bug#44139](#)) 。

[Bug#18360](#) も参照。

- MySQL のデータディクショナリの同期が崩れているときに、InnoDB で SELECT MAX(*autoinc_column*) を使用すると、クラッシュする可能性があった ([Bug#44030](#)) 。
- [LOAD DATA INFILE](#) ステートメントがバイナリログに書き込まれ、バイナリログ内のそのステートメントを再実行すると、解析に関する問題が発生する可能性があった ([Bug#43746](#)) 。
- 埋め込みサーバ内のプロセスリストから選択すると、クラッシュした ([Bug#43733](#)) 。

[Bug#47304](#) も参照。

- 4GB より大きな共有メモリセグメントを持つ [large pages](#) を有効にしようとする、サーバがクラッシュした ([Bug#43606](#)) 。
- 一部のプラットフォームでスタック成長テストに失敗し、これがサーバクラッシュの原因となっていた ([Bug#42213](#)) 。
- [UPDATE](#) ステートメントのサブクエリで使用されるテーブルに対して、MySQL サーバが間違ったロックタイプを使用した (適切な場合は TL_READ_NO_INSERT の代わりに常に TL_READ を使用した)。その結果、ステートメントが間違った順序でバイナリログに書き込まれるので、レプリケーション障害になる場合があった ([Bug#42108](#)) 。
- Windows 上の noinstall パッケージから、*mysql-stress-test.pl* テストスクリプトが消失していた ([Bug#41546](#)) 。
- [SHOW CREATE VIEW](#) の権限が正しくチェックされていなかった ([Bug#35996](#)) 。
- 空間データタイプのカラムが含まれるテーブルに対して [CHECKSUMTABLE](#) を実行すると、実行のたびに返される結果が異なった ([Bug#35570](#)) 。
- [FLUSH TABLES](#) を [SHOW FUNCTION STATUS](#) または [SHOW PROCEDURE STATUS](#) と同時に実行すると、サーバがクラッシュする可能性があった ([Bug#34895](#)) 。
- *myisamchk* が起動時にパラメータ値のキャストを実行し、不要な警告メッセージが生成された ([Bug#33785](#)) 。

- Windows 上でソースから MySQL をビルドする際、
WITH_BERKELEY_STORAGE_ENGINE オプションを指定すると、BDB のサポートを正しく構成することができなかった ([Bug#27693](#))。

※本翻訳は、理解のための便宜的な訳文として、オラクルが著作権等を保有する英語原文を NRI の責任において翻訳したものであり、変更情報の正本は英語文です。また、翻訳に誤訳等があったとしても、オラクルには一切の責任はありません。